

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	野木町煉瓦窯3周年感謝祭		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施 策 体 系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基 本 目 標	活力に満ちたのびゆくまち		課	生涯学習課
	分野別目標	地域の魅力を活かしたまちづくり		係	交流センター係
	施 策 分 野	観光振興	(5) 主担当者区分		係長
	施 策	観光資源の整備と活用	(6) 関連する課		産業課
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等		野木町煉瓦窯イベント実行委員会設置要綱			

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町民を中心に近隣市町並びに関東一円に居住する方	実施期間	5月18日 ～ 5月19日
	事業内容	国の重要文化財である「野木町煉瓦窯」と野木ホフマン館が平成28年5月にグランドオープンし、そのオープンを記念し「3周年感謝祭」を開催した。感謝祭では、煉瓦窯見学ツアー、クラシックカーイベント、体験ワークショップ、模擬店、煉瓦窯deマルシェ等を開催。また、産業課及び観光協会主導にて、アフターデスティネーションキャンペーンの一環としてフラワーカーペットの実施し、多くの方に来場いただいた。		
	前年度から改善した点	継続事業で少しずつ煉瓦窯でのイベントが周知されてきたことと、産業課の協力もあり、多くの集客につながった。		

(2) 投入コスト	会 計		010 一般会計			予 算 科 目	9 款	4 項	6 目
	事業費	区 分		単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)
		コスト総額		千円	79,881	38,245	33,550	32,127	32,127
		事業費等		千円	55,908	20,396	21,326	19,903	19,903
		財源内訳	国支出金	千円			6,076	900	
			県支出金	千円	1,054				
			地 方 債	千円					
			そ の 他	千円	2,193	2,615	2,367	3,046	3,046
			一般財源	千円	52,661	17,781	12,883	15,957	16,857
		人 件 費		千円×人役	23,973	17,849	12,224	12,224	12,224
		正規職員		千円×人役	5,968 × 4.00	5,920 × 3.00	6,053 × 2.00	6,053 × 2.00	6,053 × 2.00
		正規職員時間外勤務		千円×人役	402 × 0.25	357 × 0.25	470 × 0.25	470 × 0.25	470 × 0.25
		その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
	・煉瓦窯見学ツアー ・フラワーカーペット ・クラシックカーイベント ・石窯、陶芸ワークショップ ・コンテナコンテスト ・模擬店 ・その他、チラシや報道機関等への周知	煉瓦窯見学者数	人	1,500	2,300	153.3	1,000	1,045	104.5
		石窯・陶芸ワークショップ ^o	人	70	75	107.1	70	116	165.7
		フラワーカーペット	人	30,000	46,000	153.3	15,000	14,000	93.3
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
	・日本に残る貴重な産業遺産である野木町煉瓦窯の魅力を町内外に発信できた。 ・学習、観光、地域振興の拠点としてのホフマン館のPRに貢献できた。 ・渡良瀬遊水地や歴史的な資源豊かな立地を生かした回遊拠点としての施設の魅力を周知できた。	来館者数	人	30,000	46,000	153.3	15,000	14,000	93.3

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評 価	理 由	明治期の近代産業の発展に貢献した煉瓦窯とその重要性が広く認識されたこと。また、文化財を保存するのはもちろんのこと、文化財を観光連携の一環として捉え、新たな資源として活用することが重要である。
		A. 結びつく		
(2) 効率性	町民のニーズに即した事務・事業か	評 価	理 由	新たな観光資源として、今後も文化財を活かした取り組みが重要である。
		A. ニーズが増大している事業である		
(3) 公平性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評 価	理 由	各種事業やイベント開催にあたり、ホフマン館に関わる人材の活用が大きく、新たな人材発掘を同時に展開することが重要である。
		D. 民間活力を活用した方が良い		
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評 価	理 由	春のイベントとしては新年度早々の開催となり、準備期間等の不足が懸念され、他課(特に観光部局)との連携が今後一層必要になってくる。
		B. 検討の余地あり		
(4) 総合評価	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評 価	理 由	これまで多くの予算を伴った煉瓦窯の修復、施設の整備であり、多くの窯見学、施設の利用が本来の設置目的であることから、できるだけ受益者負担の原則を踏まえて、今後も来場したくなるような各種事業を実施していくことが多くの町民や近隣住民の利用に繋がる。
		B. 概ね保たれている		
	事業の受益者負担割合は妥当か	評 価	理 由	煉瓦窯の見学料については今後の検討課題であるが、他の事業については妥当性があった。
		A. 妥当である		
(5) 今後の課題・方向性	事業再検討の余地	評 価	理 由	新たな観光資源として、今後も文化財を活かした取り組みが重要である。
		A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある		
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評 価	理 由	開催時期や内容など検討の余地はあるが、今後も創意工夫をしながら継続する方向である。
		A. 事業終了の可能性はない		

5. 今後の課題・方向性				
(1) 改善点	主 担 当 者	春のイベントとして町内外にPRを行っているので、たくさんのお客様にお越しいただいたが、駐車場不足で隣接するクレイン栃木や周辺住民に迷惑をかけてしまったところがあった。イベントの規模およびスタッフの人数や配置などの見直しが今後の課題である。また、ホフマン館が観光の拠点という設置目的からも、町観光協会・観光主管課と更に連携し、イベントの共同開催という手法をとることが経費の削減、事業の効率化、観光振興につながると思われる。		
(2) 評価・今後の方針	1 次 評 価	担 当 係 長	評 価	今後の方向性
			B. 事業改善	野木町煉瓦窯を活かした事業、文化財等を観光資源として活用する事業は、担当課の単独事業ではなく、観光サイドと連携することで今後の集客が期待でき、相乗効果として野木町全体の観光振興につながると思われる。
	2 次 評 価	所 属 長	評 価	今後の方向性
			C. 事業継続	野木町煉瓦窯の魅力を町内外に発信するために必要な事業であり、今後も継続すべき。
	3 次 評 価	町 長	評 価	今後の方向性

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	煉瓦窯夏フェスタ		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施 策 体 系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基 本 目 標	活力に満ちたのびゆくまち		課	生涯学習課
	分野別目標	地域の魅力を活かしたまちづくり		係	交流センター係
	施 策 分 野	観光振興	(5) 主担当者区分		主査
	施 策	観光資源の整備と活用	(6) 関連する課		産業課 未来開発課
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等		野木町煉瓦窯イベント実行委員会設置要綱			

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町民を中心に近隣市町並びに関東一円に居住する方	実施期間	7月28日 ～
	事業内容	グランドオープン以前は、ひまわりフェスティバル期間に合わせて修復中の煉瓦窯を特別公開してきたが、平成28年5月のグランドオープン後は煉瓦窯見学者の集客、賑わい創出、多くの方に来館してもらう目的で「野木町煉瓦窯夏フェスタ」を開催している。夏フェスタでは、煉瓦窯の見学ツアー、各ワークショップ、フォトラリー、模擬店などの事業を実施した。未来開発課の協力により、遊水地のよしずを使ったよしず編みや紙漉き体験を行い、遊水地を含めた観光周遊PRも実施している。		
	前年度から改善した点	イベント内容を見直して開催しており、ひまわりフェスティバルと合わせて集客につながるよう努めている。		

(2) 投入 コスト	会 計		010 一般会計			予算科目	9 款	4 項	6 目
	事業費	区 分		単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)
		コスト総額		千円	79,881	38,245	33,550	32,127	32,127
		事業費等		千円	55,908	20,396	21,326	19,903	19,903
		財源内訳	国支出金	千円			6,076	900	
			県支出金	千円	1,054				
			地方債	千円					
			その他	千円	2,193	2,615	2,367	3,046	3,046
			一般財源	千円	52,661	17,781	12,883	15,957	16,857
		人件費		千円×人役	23,973	17,849	12,224	12,224	12,224
		正規職員		千円×人役	5,968 × 4.00	5,920 × 3.00	6,053 × 2.00	6,053 × 2.00	6,053 × 2.00
		正規職員時間外勤務		千円×人役	402 × 0.25	357 × 0.25	470 × 0.25	470 × 0.25	470 × 0.25
		その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	・煉瓦窯見学ツアー ・フォトラリー ・よしず編み、石窯料理体験、陶芸ワークショップ ・企画展(野鳥)、野鳥講演会 ・模擬店 ・チラシ作成並びに各社報道機関を使った周知			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				煉瓦窯見学者数	人	800	276	34.5	400	199	49.8
				フォトラリー参加者数	人	200	120	60.0	100	21	21.0
				野鳥講演会	人	50	30	60.0	50	50	100.0
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	・日本に残る貴重な産業遺産である野木町煉瓦窯の魅力を町内外に発信できた。 ・学習、観光、地域振興の拠点としてのホフマン館のPRに貢献できた。 ・渡良瀬遊水地や歴史的な資源豊かな立地を生かした回遊拠点としての施設の魅力を周知できた。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				来館者数	人	2,000	800	40.0	1,000	1,000	100.0

4. 評価					
(1) 必要性	総合計画の目標に結び 付く事務・事業か	評 価		理 由	夏のイベントとして、ひまわりフェスティバルに合わせて夏フェスタを 開催。近代産業の一端を担った煉瓦窯とその重要性が広く認識さ れてきている。また、文化財を観光連携の一環として捉え、新たな 資源としての活用が重要である。
		A. 結びつく			
	町民のニーズに即した事 務・事業か	評 価		理 由	新たな観光資源として、また、煉瓦窯敷地内の環境を活かして集客 を図り、文化財を活かした取り組みが必要。
		B. ニーズが横ばいの事業である			
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る 民間活力利用の可能性 はあるか	評 価		理 由	各種事業やイベント開催にあたり、ホフマン館に関わる人材の活用 が大きく、新たな人材発掘を同時に展開することが重要である。
		C. 検討の余地あり			
	類似事業との統合・連携 や予算やコスト削減の可 能性はあるか	評 価		理 由	ひまわりフェスティバルとの共同開催であるが、予想より煉瓦窯への 回遊が少ないため、イベント内容の見直しが必要である。近年の猛 暑から更なる健康対策を考慮することも必要である。
		B. 検討の余地あり			
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがな く公平性保たれているか	評 価		理 由	事業経費は低予算に抑えられ、来場いただいた方々に町の宝とし て煉瓦窯の重要性、今後の保存継承等の必要性が認識してもらえ たこと、さらに、今後の集客につながる周知ができたことを考えると、 受益者負担の公平性はあるといえる。
		B. 概ね保たれている			
	事業の受益者負担割合 は妥当か	評 価		理 由	今後の集客につながることを考慮すると、妥当性があるといえる。
		A. 妥当である			
(4) 総合 評価	事業再検討の余地	評 価		理 由	夏のイベントとして継続して行っていくためには、事業内容の再検 討が必要と思われる。
		C. 課題等解決のため再検討する必要がある			
	事業終了の可能性・ 終了条件の有無	評 価		理 由	事業内容を再検討し、継続の方策を考えた方がよいと思われる。
		A. 事業終了の可能性はない			
5. 今後の課題・方向性					

(1) 改善 点	主 担 当 者	ひまわりフェスティバルの共同開催であるが、夏場のイベントであり、健康対策やひまわり会場からの回遊が少ないことから、令和元 年度は開催日を2日から1日に短縮して実施した。ひまわりフェスティバル期間中は多くの職員がひまわりフェスティバル協力職員とし て参加し、夏フェスタへの協力参加が難しい現状である。開催については、産業課と生涯学習課それぞれの猛暑時期のイベント競 合開催を見直し、ホフマン館室内で実施できるような規模の事業に切り替える等などの検討が必要である。			
(2) 評価・今後 の方針	1 次 評 価	担 当 係 長	評 価	今後の方向性	
			B. 事業改善	季節ごとに野木町煉瓦窯を活かした事業を実施することは多くの集客につながり、一定の効果 はあるが、今後、費用対効果を見極めながら実施していくことは重要である。夏場であり、職員 やスタッフの負担を考慮し、事業の検討が必要である。	
	2 次 評 価	所 属 長	評 価	今後の方向性	
			B. 事業改善	ひまわりフェスティバルとの同時開催であるが、集客が少ない状況であるため、事業改善が急務 である。	
	3 次 評 価	町 長	評 価	今後の方向性	

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	れんがまつり		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施 策 体 系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基 本 目 標	活力に満ちたのびゆくまち		課	生涯学習課
	分野別目標	地域の魅力を活かしたまちづくり		係	交流センター係
	施 策 分 野	観光振興	(5) 主担当者区分		係長
	施 策	観光資源の整備と活用	(6) 関連する課		産業課 未来開発課
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等		野木町煉瓦窯イベント実行委員会設置要綱			

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町民を中心に近隣市町並びに関東一円に居住する方	実施期間	10月12日 ～ 10月13日
	事業内容	国指定重要文化財である「野木町煉瓦窯」と秋のメタセコイヤ並木の魅力を感じていただけるよう、夏フェスタに続き秋のイベントとしてれんがまつりを開催している。 令和元年度は台風19号の影響により、予定していた2日とも中止となった。		
	前年度から改善した点			

(2) 投入コスト	会計		010 一般会計			予算科目	9 款	4 項	6 目
	事業費	区分		単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)
		コスト総額		千円	79,881	38,245	33,550	32,127	32,127
		事業費等		千円	55,908	20,396	21,326	19,903	19,903
		財源内訳	国支出金	千円			6,076	900	
			県支出金	千円	1,054				
			地方債	千円					
			その他	千円	2,193	2,615	2,367	3,046	3,046
			一般財源	千円	52,661	17,781	12,883	15,957	16,857
		人件費		千円×人役	23,973	17,849	12,224	12,224	12,224
		正規職員		千円×人役	5,968 × 4.00	5,920 × 3.00	6,053 × 2.00	6,053 × 2.00	6,053 × 2.00
		正規職員時間外勤務		千円×人役	402 × 0.25	357 × 0.25	470 × 0.25	470 × 0.25	470 × 0.25
		その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
	【台風19号の影響により全て中止】 ・野木町文化遺産フェスティバル(伝統文化ステージ、基調講演、煉瓦窯座談会) ・煉瓦窯見学ツアー ・ひいらぎブローチづくり、石窯料理ワークショップ ・模擬店			目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)		
				煉瓦窯見学者数	人	700	544	77.7	700		0.0
				文化遺産フェスティバル参加者数	人	200	139	69.5	200		0.0
				ワークショップ参加者数	人	50	72	144.0	50		0.0
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成30年度			令和元年度				
				目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)		
				来館者数	人	2,000	4,000	200.0	2,000		0.0

4. 評価					
(1) 必要性	総合計画の目標に結び 付く事務・事業か	評 価	理 由	グランドオープン以降の四季のイベントとして、れんがまつりを開催 している。近代産業の一端を担った煉瓦窯とその重要性が広く認 識され、文化財を観光連携の一環として新たな観光資源として活用 することが重要である。	
		A. 結びつく			
	町民のニーズに即した事務・事業か	評 価	理 由	新たな観光資源として、文化財を活かした取り組みが今後も重要で ある。	
		B. ニーズが横ばいの事業である			
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る 民間活力利用の可能性 はあるか	評 価	理 由	煉瓦窯での一番大きなイベントであり、煉瓦窯を活用した「文化遺産 フェスティバル」を行っているため、ホフマン館に関わる人材の活 用はもちろんであるが、行政主体で開催することが望ましいと思わ れる。	
		B. 行政主体が望ましい			
	類似事業との統合・連携 や予算やコスト削減の可 能性はあるか	評 価	理 由	イベント内容に伴う予算的な費用を更に精査し、次年度に反映して いきたい。	
		A. 現状が望ましい			
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく 公平性保たれているか	評 価	理 由	事業経費は、経費の削減をなるべく考慮している。来場者には煉瓦窯 の重要性、今後の保存継承等の必要性を認識してもらうこと等を 考えると、受益者負担の公平性はあるといえる。	
		B. 概ね保たれている			
	事業の受益者負担割合 は妥当か	評 価	理 由	今後の集客につながることを考慮すると、妥当性があるといえる。	
		A. 妥当である			
(4) 総合 評価	事業再検討の余地	評 価	理 由	れんがまつり自体のイベントは継続すべきであると考えてるが、令和2 年度で活性化事業(文化庁補助事業)が終了となるので、新たに事 業見直しが必要となってくる。	
		C. 課題等解決のため再検討する必要がある			
	事業終了の可能性・ 終了条件の有無	評 価	理 由	煉瓦窯を活かした活性化事業(文化庁補助事業)の終了に伴う新 たな事業見直しが必要。	
		A. 事業終了の可能性はない			
5. 今後の課題・方向性					

(1) 改善点	主担当者	令和元年度は台風の影響で中止となったが、秋のれんがまつりについては、活性化事業の補助対象期間は継続していくことが必要と考える。補助期間が終わる令和2年度以降は経費的な側面でイベント内容の大幅な見直しが必要である。また、開催期間も、財政的な側面から、今後は2日間から1日間に短縮することも検討項目である。			
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評 価	今後の方向性	
			C. 事業継続	当面は事業の継続が必要である。季節ごとに野木町煉瓦窯を活かした事業を実施することは多くの集客につながり効果があるが、今後、費用対効果を見極めながら実施していく。文化財等を観光資源として活用する事業は重要であるが、職員やスタッフの負担を考慮し、開催期間の検討が必要と考える。	
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性	
			C. 事業継続	文化庁の補助金が令和2年度で終了するため、事業内容を検討する必要がある。煉瓦窯のイベントは四季実施しているので、今後も継続すべき事業である。	
	3次評価	町長	評 価	今後の方向性	

1. 事業の位置づけ														
(1) 事務事業名		煉瓦窯冬フェスタ				(2) 新規・継続評価の別			継続					
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系		施策分野別計画			(4) 担当 部署	部(局)		教育委員会					
	基本目標		活力に満ちたのびゆくまち				課		生涯学習課					
	分野別目標		地域の魅力を活かしたまちづくり				係		交流センター係					
	施策分野		観光振興			(5) 主担当者区分		主査						
	施策		観光資源の整備と活用			(6) 関連する課		産業課 未来開発課						
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等		野木町煉瓦窯イベント実行委員会設置要綱												
2. 事業内容・投入コスト														
(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方		野木町民を中心に近隣市町並びに関東一円に居住する方				実施期間		12月1日 ～					
	事業内容		四季のイベントの一つとして、冬フェスタを開催。「恋人の聖地で灯す愛と光」をテーマに、煉瓦窯周辺にイルミネーションを飾り付け、クレイン栃木の協力のもと、アジア競技大会金メダリストの馬術観覧を行ったり、フォルクスワーゲンイベントやファイアー＆ライトパフォーマンスなどで冬の煉瓦窯を演出した。											
	前年度から改善した点		イベント内容を見直し、新たに馬術観覧、フォルクスワーゲンイベントやファイアー＆ライトパフォーマンス等を実施し、集客につながるよう考慮した。											
(2) 投入 コスト	会計		010 一般会計			予算科目		9 款		4 項		6 目		
			区分		単位	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (見込み)	令和3年度 (見込み)				
			コスト総額		千円	79,881	38,245	33,550	32,127	32,127				
			事業費等		千円	55,908	20,396	21,326	19,903	19,903				
	事業費	財源内訳	国支出金		千円			6,076	900					
			県支出金		千円	1,054								
			地方債		千円									
			その他		千円	2,193	2,615	2,367	3,046	3,046				
			一般財源		千円	52,661	17,781	12,883	15,957	16,857				
			人件費		千円×人役	23,973	17,849	12,224	12,224	12,224				
			正規職員		千円×人役	5,968 × 4.00	5,920 × 3.00	6,053 × 2.00	6,053 × 2.00	6,053 × 2.00				
			正規職員時間外勤務		千円×人役	402 × 0.25	357 × 0.25	470 × 0.25	470 × 0.25	470 × 0.25				
			その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×				
3. 活動指標・成果指標														
(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段		指標名	単位	平成30年度			令和元年度						
	・煉瓦窯見学ツアー ・馬術観覧 ・フォルクスワーゲンイベント ・イルミネーション点灯式 ・模擬店 ・ファイアー＆ライトパフォーマンス ・陶芸、石窯、バンブーキャンドル等のワークショップ				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)				
					煉瓦窯見学者数			人	300	165	55.0	300	148	49.3
					ワークショップ参加者数			人	120	140	116.7	120	128	106.7
					イルミネーション来場者数			人	300	200	66.7	300	200	66.7
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果		指標名	単位	平成30年度			令和元年度						
	・日本に残る貴重な産業遺産である野木町煉瓦窯の魅力を町内外に発信できた。 ・学習、観光、地域振興の拠点としてのホフマン館のPRに貢献できた。 ・渡良瀬遊水地や歴史的な資源豊かな立地を生かした回遊拠点としての施設の魅力を周知できた。				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)				
					来場者数			人	2,000	3,000	150.0	2,000	2,000	100.0

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び 付く事務・事業か	評 価	理 由	四季のイベントとして、冬フェスタを開催した。近代産業の一端を担った煉瓦窯とその重要性が広く認識されてきている。また、文化財を観光連携の一環として捉え、新たな資源としての活用が重要である。
		A. 結びつく		
	町民のニーズに即した事務・事業か	評 価	理 由	新たな観光資源として、また、煉瓦窯敷地内の環境を活かして集客を図り、文化財を活かした取り組みが必要。
		B. ニーズが横ばいの事業である		
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評 価	理 由	各種事業やイベント開催にあたり、ホフマン館に関わる人材の養成と、新たな人材発掘を同時に展開することが重要である。
		D. 民間活力を活用した方が良い		
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評 価	理 由	冬場のイベントとして賑わい創出には効果的である。しかし、イルミネーションについては経年劣化などで使用できない物が次々に出てきており、継続するには新規の購入が必要である。
		B. 検討の余地あり		
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評 価	理 由	冬場のイベントとして、多くの集客につながり、煉瓦窯保存継承等の必要性が認識してもらえたことを考えると、受益者負担の公平性はあるといえる。
		B. 概ね保たれている		
	事業の受益者負担割合は妥当か	評 価	理 由	今後の集客につながることを考慮すると、妥当性があるといえる。
		A. 妥当である		
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評 価	理 由	新規のイベントとして、隣接するクレイン栃木の協力により、アジア競技大会金メダリスト選手による馬術観覧を行い、たくさんの来場者に楽しんでもらえた。新たな地域振興、賑わい創出の貢献できた。
		A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある		
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評 価	理 由	冬のイベントとして継続するが、イベント内容などは今後も検討していきたい。
		A. 事業終了の可能性はない		
5. 今後の課題・方向性				

(1) 改善点	主 担 当 者	冬の寒い時期であるため、集客が難しいイベントではあるが、新たにクレイン栃木の協力により、クレイン屋外馬場での馬術観覧を行ったり、昨年度まで行っていたイルミネーション点灯式後のナイトグローに代わり、ファイアー＆ライトパフォーマンスを行うなど、来場者の方に喜んでもらえるよう工夫して実施した。しかし、来場者数は昨年度とほとんど変化がないので、今後も内容を検討していきたい。また、イルミネーションは恋人の聖地ということもあり、バレンタインデー後まで点灯しているが、費用対効果を考えると期間を短縮して実施し、バレンタインデーには観光主管課と連携して他の取り組みを実施するなどしていきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1 次 評 価	担 当 係 長	評 価	今後の方向性
			B. 事業改善	年間を通して季節ごとのイベントとして冬フェスタを実施したが、ホフマン館の認知度を維持するため、継続的に続けることが重要である。今後も実施方法を検討し、観光主管課と連携を強化することで、よりイベントが拡大して賑わい創出できると思われるので、創意工夫しながら施設を最大限活用していかなければならないと考える。
	2 次 評 価	所 属 長	評 価	今後の方向性
			B. 事業改善	事業内容を工夫しながら集客の増加を図る必要がある。
	3 次 評 価	町 長	評 価	今後の方向性